

～心豊かにより楽しく生きがいを感じる人生を～

平成25年度香南市市民大学

第8回 香南いきいきセミナー



のいちふれあいセンター
サンホール

不安にむきあう
～野市が生んだ森田療法を知ろう～

東京慈恵会医科大学
精神医学講座教授

中山 和彦

(なかやま かずひこ)

現代社会では多くの人々が不安やうつの問題を抱えています。不安やうつに対する向き合い方と、野市町に生まれた森田正馬先生が考案した、神経症の治療法として世界的に有名な「森田療法」についてもわかりやすくお話しします。

▶ 開講式

9.17 火
19:00～20:45

のいちふれあいセンター
サンホール

**“イクメン” “イクジイ” が
社会を変える!**

～家族が笑顔になる秘訣～

NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表

安藤 哲也

(あんどう てつや)

イクメン講演会でひっぱりだこのカリスマパパ。「父親であることを楽しむ」をモットーに、父親たちが家庭や地域に積極的に関わるようになれば、日本社会は大きく変わると説く。厚生労働省イクメンプロジェクト推進チーム座長。二男一女の父親。



9.26 木
19:00～20:30



夜須中央公民館
マリンホール

**池上彰・増田ユリヤ
トークショー**

ジャーナリスト

池上 彰

(いけがみ あきら)

ジャーナリスト

増田ユリヤ

(ますだ ゆりや)

日本テレビ「世界一受けたい授業」などで活躍されている池上彰さんと、高校で世界史・日本史・現代社会を教えるなど精力的に活動されているジャーナリストの増田ユリヤさんのトークショー。

10.9 水
19:00～20:30

夜須中央公民館
マリンホール

**キッチンからはじまる
家族の絆**

料理研究家

コウケンテツ

料理研究家の母、李映林のアシスタントを務めた後、独立。いま注目の料理研究家としてさまざまなメディアで活躍中。母から受け継いだ韓国の味をベースにしながら、和洋中、イタリアンからスイーツまで幅広いレパートリーが人気を集めています。



▶ 閉講式
10.17 木
19:00～20:30

★募集人員 520人 ※先着順(小学生未満は入場できません)

★受講料 1,000円(全4回分受講券)

★受講券 8月1日(木)から販売開始(定員に達するまで)

★受講券販売場所

市教育委員会生涯学習課／野市・夜須中央公民館／香我美市民館

香我美・野市図書館／市役所各支所(本庁では販売していません)

★手話通訳や託児(無料・一週間前までに要予約)を行います。

★当日は香南市内各方面より無料送迎バスが出ます。

セミナー当日は両会場とも駐車場が大変混雑します。市役所各支所に

自家用車を駐車し、無料送迎バスをご利用ください。

お問い合わせ

■市教育委員会生涯学習課

☎57-7523

■夜須中央公民館

☎54-2121

■のいちふれあいセンター
(野市中央公民館)

☎56-1056



▶ 詰め込まれた列車

突然の好機
ところが山間の傾斜面にさしかかった時、好機が訪れました。急傾斜のため速度の落ちていた列車が畑の際で停車したのです。この機を逃すなど、みんな先を争い列車から飛び降り始めました。私たち家族もかろうじて下車できましたが、突如列車が動き始め、あつという間に遠ざかっていきました。その時に親が降りられたのに子どもを下ろせなかった人、またその逆もあり呆然と立ち尽くしていました。そして悲鳴と共に列車の音が小さくなっていきました。

徒歩での南下

列車を降りてからは徒歩での南下でした。ソ連軍や、暴徒に見つからないよう、道を外れて進む必要がありました。それでも土地勘のない場所を進むと地元民と鉢合わせになり罵声を浴びせられました。また、南下する日本人を目当てにした物取りや、尋問が多く、集団に囲まれては、保安隊なので所持品の検査をされると言われ物品を盗られることもしばしば。検問所では怪しいと思われた人や若い女性が拘束され、その後会うことはありませんでした。

命を賭けての越境
真夜中に身支度を調べ、闇を進み国境手前の急斜面の草むらに身を潜めました。闇にききました。案内を依頼し、歩いていると、地元農夫に止められました。先日も日本人がその方向へ行って暴行されて荷物を盗られていると。気づくと案内人の姿はありませんでした。一緒に南下をしていた他の集団も同じ手口で連れて行かれ、何人が撲殺されていました。およそ7日間の徒歩で、ついに38度線まで2kmの所までたどり着きました。いよいよ越境です。この地の人々はとても親切で母は井一杯の粥を調達できました。



▶ 激流に足を取られながらの越境

目をこらすと至る所にたくさんの人が潜んでいて驚きました。北から南に逃れようとする朝鮮人の姿も見られました。偵察に行った人が戻り、手薄を付くことは無理との報告を聞き、覚悟を決めて駆け出しました。斜面横に民家が見えたと気づいた瞬間、不運にも数匹の犬が気配を感じ吠え立て始め、その直後に後方から悲鳴が。ソ連兵の追っ手でした。橋は遙か遠く、みんなで水深もわからない川へ飛び込みました。最後の気力を振り絞り南の岸を目指しました。岸へ着くと広い河原を駆け抜け土手に駆け上りました。ついに越えたのです。38度線。今までの悪夢が終わった瞬間でした。

歴史の真実

北朝鮮における日本人の死者数は軍人約9千人。一般人は3万5千人を超えると言われていています。この一般人の中にはお年寄り、女性、子どもも多く含まれています。私も自分の兄弟と同じぐらいの子どものが犠牲になっていく姿をたくさん見てきました。想像してください。戦争で怪我をした我が子を連れて逃げると共に倒れなくなるため、置いてくる決断をしなければならぬ状況。食べさせられず背中をわが子を亡くしてしまおう親の気持ち。戦争で人は極限状態になります。命が消耗品のように捨てられていきます。それを体験した者として「二度と戦争はしてはならない」と伝えたい。そして、自分たちが生まれることができたのは、受難の歴史を生きてきたから今の自分たちがいる。犠牲を払って今があることを忘れないで欲しい。